

トードス・オス・サントス跡

この場所は 1569 年に建てられた長崎の最初の教会堂、トードス・オス・サントス（諸聖人）の跡地です。元商人のイエズス会士ルイス・デ・アルメイダは、キリシタン大名大村純忠（1533-1587）の家臣、長崎甚左衛門純景からこの土地を与えられました。1556 年に来日し、日本についての詳細な記述を残したイエズス会の司祭ガスパル・ヴィレラ神父は、ここに建っていたお寺を改築して教会を建てました。1590 年代後半から、この場所にはセミナリオとコレジヨ、そして金属活版印刷所が置かれました。ここには 1602 年から 1605 年にかけて修練院があり、1612 年に有馬領がキリスト教を放棄した際は有馬のセミナリオもここに移されました。

幕府が日本全国に禁教令を発してから 6 年後の 1620 年、トードス・オス・サントスは取り壊され、その跡地にはこの春徳寺という禅寺が建てられました。現在のお寺の建物は江戸時代（1603-1868）の後期に建立されたものですが、その井戸は教会が健在だった 16 世紀末から 17 世紀初期のものとされています。